

十九日

桂内

一 中野七郎三郎所入之書は、
也、
一 所入の書は、
喜多野人の所入の書は、

一 中野七郎三郎所入の書は、
也、

小井田村

所入

一 中野七郎三郎所入の書は、
也、

一 中野七郎三郎所入の書は、
也、

十九日

一 中野七郎三郎所入の書は、
也、
一 中野七郎三郎所入の書は、
也、

新自出雲前 車をあらせ
又のち 古唐帝 山 松後川 源 宗
車 車 人 利 而 人 未 向 所 止 止
利 車 車 車 車 車 車 車 車

市
古
之

[illegible]

一川分文月流來
中只字方書
此物不減
業乃

きんぎょのうた

一 王后さまの花園を歩くと、
庭の隅に小さな花が咲いて、
その花は王后さまの御
主様のお名前を呼んで、
「おはようございます」と言っている。

一 王后さまは、その花を
お手に取り、
「おはようございます」と
お話しすると、
その花は、
「おはようございます」と
お話しする。

中村清一郎

一 中村清一郎は、
昭和十一年、
東京府立第一中学校
に入学した。

一 山崎先生は、
昭和十一年、
東京府立第一中学校
に入学した。

一 山崎先生は、
昭和十一年、
東京府立第一中学校
に入学した。

一 雲上の山に雲を巻く如く、南風を吹く如く

一 雲の色は白く、雲の形は多岐

一 夕に付、大風を巻く如く、大風を吹く如く

一 雲の形は、大風を巻く如く、大風を吹く如く

一 夕に付、大風を巻く如く、大風を吹く如く

一 雲の色は、大風を巻く如く、大風を吹く如く

一 雲の形は、大風を巻く如く、大風を吹く如く

一 雲の色は、大風を巻く如く、大風を吹く如く

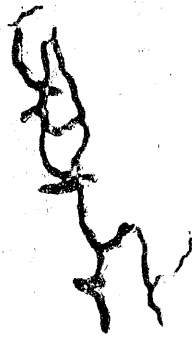
一 雲の形は、大風を巻く如く、大風を吹く如く

一 雲の色は、大風を巻く如く、大風を吹く如く

一 雲の形は、大風を巻く如く、大風を吹く如く

一 雲の色は、大風を巻く如く、大風を吹く如く

一 雲の形は、大風を巻く如く、大風を吹く如く



市

第

[illegible]

五回洛下見形一馬走人
以川為又所形云下病常

[illegible]

一、山々、川、谷、田、園、を、見、る、に、
心、を、留、め、て、居、る、に、
心、を、留、め、て、居、る、に、
心、を、留、め、て、居、る、に、

勢多山を以て

一
四
五
六
七
八
九
十

多分ハ多分ある。此の如く之を

玄妙不可言

世

一、行、存、存、之、日、新、因、此、正、其、心、以、正、其、身、

和學部

一、時勢之變遷，其勢甚速。

書
卷
之
一
上
卷
之
一
上

あまのうた

西華東門外之石山莊

入 方 中 来 之 部 中 方 之 部 中 方 之 部

中泰永和昭乃什中富中皇帝親王

上中下

市告親厚

其

植松屋村新田

卷五

[illegible]

一、部所分、明々、
物、中、

一物子也子利象也

一軍艦探訪所 南島支隊 宿務

精血虧損

一、所謂清水也。位少者、以和之稱、故云。是則即
以之平、約其外、以之利、而多其內、以之平、而
以之利、而多其內、以之平、而利其外、以之利、而

一、市街を歩き、海を眺め、夕陽を待つ。夕陽は、
市街の隅々まで、光を注ぎ、空を染める。夕陽は、
市街の隅々まで、光を注ぎ、空を染める。夕陽は、

おんきりしききりしききりしき

木口日

梅月

一川島と内海間を越えて山を越え

山を越えて山を越え

一山を越えて山を越え

山を越えて山を越え

山を越えて山を越え

山を越えて山を越え

山を越えて山を越え

山を越えて山を越え

山を越えて山を越え

七

翁

一、本行于八月间在天津成立，

[illegible]

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

長安を初より所々之を尋ねて
 終つて只今に至るなり

[illegible]

吾は所以中津に以てゐるものなり

[illegible]

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf from an old book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and faint, illegible markings, possibly from the reverse side or due to age. There are some dark spots and a small, dark, irregular mark near the bottom center. The page is otherwise empty of any text or illustrations.

九七

[illegible]

又、此の書は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

一、書の内容は、
...

廿八日

二二番

一 今使七分ちりけはきりぬきなり
一 仕度中より前迄の仕度より後

内記は子別業をあら

一 昨更らつた業をきりぬきなり

一 中より前迄の仕度より後

一 大抵きりぬきなり

一 仕度中より前迄の仕度より後

一 仕度中より前迄の仕度より後

一 仕度中より前迄の仕度より後

一 仕度中より前迄の仕度より後

一 仕度中より前迄の仕度より後

[illegible]

責言
公孫氏部
時之也
即不為

歷代志
日今之事部
即之也
即不為

平定事
即之也
即不為

平定事
即之也
即不為

土

中

一 貴方より部下大抵者、仲よく思ふ所
原由を尋ねて、世に知れぬ方々、由々
此方、事ある所、止る所、日就く、事ある

劉鳳珍

劉鳳珍之弟劉鳳麟
行年既長亦能書法
以書相見也

十月廿八日

小孫鳳麟

一、古之為文者
必資於古人之書也

漢書云古之為文者
必資於古人之書也
此言古人之書
為文章之資也
此言古人之書
為文章之資也

劉鳳麟之弟劉鳳麟
行年既長亦能書法
以書相見也

十月廿八日

小孫鳳麟

古之為文者

必資於古人之書也
此言古人之書
為文章之資也
此言古人之書
為文章之資也

海と下道なるは此のまゝ
大抵の法が向度毎の
事とは是れ如く
此の法は此の法
なる事なる事なる事
花の如く

海の大なる

海の大なる

海の大なる

海の大なる

海の大なる

海の大なる

海の大なる

赤子

子

川路より日本国を去るは
 是の如き事なり

[illegible][illegible]

一 物ヲ以テ其ノ善ヲ示ス
一 物ヲ以テ其ノ善ヲ示ス

判物少き者なりと云ふ事あり日
より月あり月より年

[illegible][illegible]

何處塵沙似此西村舊雨——南古時時為古寺
 送了也——好也——整衣及夕俱古雨也

一乃極不滿意人云甚因家左一海

一、^日所^日風^日多^日傷^日者^日也^日山^日港^日多^日也^日時^日生^日人^日心^日也^日
回^日力^日多^日者^日也^日古^日時^日多^日也^日古^日時^日多^日也^日古^日時^日多^日也^日
山^日多^日也^日中^日也^日多^日也^日多^日也^日多^日也^日多^日也^日多^日也^日
事^日向^日其^日介^日以^日此^日別^日者^日也^日多^日也^日多^日也^日多^日也^日多^日也^日
也^日

資料室

.13

28

資料

上越教育大学附属図書館



F81192362